

2026年度  
京カレッジ

京都力養成コース京都学講座

祈りのまち・京都を読み解く  
— 宗教がつくった文化のかたちを探して

●受講料

10,000円(基本講座10回)

※実地講座1・2の応募方法は受講確定後に受講生に改めて案内いたします。

※大学コンソーシアム京都加盟校の正規学生(ただし大学院・通信教育課程生等を除く)および放送大学京都学習センター全課程修生は基本講座の受講料を無料とします。学生証のコピーを出願の際にご提出ください。

●定員

「午前コース」「午後コース」とともに各200名

※いずれも同じ講座内容です。いずれかのコースを選んで出願してください。各コースとも出願が定員を超過した場合は抽選で受講生を決定します。出願後にコースを変更することはできません。予めご了承ください。

●出願方法

「京カレッジ募集ガイド」をご確認いただき、WEBにてご出願ください。

【単位互換・京カレッジポータルサイト】  
<https://tg-kyoto.consortium.or.jp/>  
過去に出願登録のある方も、「初めての方はこちら」から利用者登録をしてください。



※WEBでの出願は、講座名等を画面上から選択するだけの簡単な仕様です。ぜひご利用ください。

※WEBのご利用が難しい場合は、郵送・持参での出願も可能です。

【注記】 受講可否は4月上旬までに通知いたします。ご購入いただいた受講料・参加費はいかなる理由でも返還いたしかねます。予めご了承ください。

無料

大学コンソーシアム京都加盟校の正規学生は  
基本講座のスポット受講が可能(1回単位で受講可能)です

希望する講座(実地講座以外)の日時に直接会場へお越しいただき、受付で学生証を提示してください(会場の定員を満たした場合は、受講をお断りさせていただくことがあります)。

※「加盟校正規学生」とは大学コンソーシアム京都加盟校の正規学生(ただし大学院・通信教育課程生等を除く)および放送大学京都学習センター全課程修生です。

■お問合せ先

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 京カレッジ担当  
The Consortium of Universities in Kyoto

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下るキャンパスプラザ京都内

TEL:075-353-9140 FAX:075-353-9121

【お問合せ受付時間】 火~土曜 9:00~17:00

<https://www.consortium.or.jp/>

京カレッジ 検索

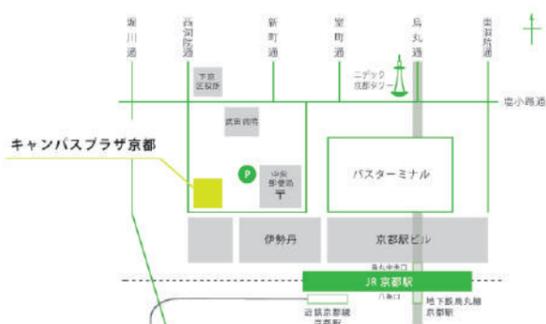


単位互換・京カレッジ Instagram



主催:京都市・公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
発行:京都市 総合企画局 国際都市共創推進室

京都市印刷物 第072084号 令和8年2月  
※この印刷物が不要になれば「確がみ」として古紙回収等へ



京都市営地下鉄、JR・近鉄「京都駅」から徒歩7分程度。  
キャンパスプラザ京都には市バス・地下鉄等公共交通機関をご利用ください。

京カレッジ

2026年度 京カレッジ  
京都力養成コース 京都学講座

2026  
5/2(土)  
2026  
~12/12(土)

土曜日開講

定員  
各200名

古来、京都は宗教とともに歩んできた都市です。寺院や神社は都市景観を形づくると同時に、人々の暮らしや文化を育んできました。宗教的な営みは、信仰の場としてだけでなく、建築・行事・都市制度・文化的風習など、多様なかたちで京都の歴史を織りなしています。本年度の講座では、「祈りのまち・京都」という視点から、宗教が都市や文化をいかに形成してきたのかについて、平安時代から江戸時代、そして近世から現代までの具体的な事象を手がかりにして検討します。寺院の成立や時の権力者との関係、南蛮文化の受容、茶の湯などの様々な文化現象、そして御朱印や民間信仰、信仰に根ざした伝承について解説します。さらに、「アニメの聖地巡礼」のような現代文化に見られる宗教的イメージにも注目し、宗教と社会・文化とのかかわりを読み解きます。

時間 【午前コース】 10:00~11:30

(受付開始 9:30)

【午後コース】 13:00~14:30

(受付開始 12:30)

※午前か午後、どちらかを選んで受講いただけます。  
各コースとも講座内容は同じです。

会場 キャンパスプラザ京都  
4階 第2講義室

御朱印  
令和元年二月三日

祈りのまち・京都を読み解く

— 宗教がつくった文化のかたちを探して

基本講座  
10回

京カレッジについて

「京(みやこ)カレッジ」では、大学の講義が受講できるほか、「市民教養講座」といった大学の生涯学習講座などを提供しています。詳しくは「京カレッジ生募集ガイド」または京カレッジホームページをご覧ください。



公益財団法人 大学コンソーシアム京都  
The Consortium of Universities in Kyoto



第1回 5/2(土)

平安京の寺院と仏堂

山田 邦和 氏 (同志社女子大学 現代社会学部 特任教授)

桓武天皇は平安京遷都にあたって、「京内には東寺と西寺以外の寺院建立を認めない」という方針を打ち出しました。その点で平安京は、京内に多数の寺院が立ち並んでいた平城京とは異なっているのです。その一方で、六角堂や因幡堂のような「堂」は平安京内にも続々と建てられていました。この講義では、本格的な寺院と「堂」の違いは何か、なぜ「堂」は許されたのか、という問題を検討し、平安京のもつ多面的な性格にスポットをあてます。



第4回 6/20(土)

織田信長と仏教

川端 泰幸 氏 (大谷大学 文学部 准教授)

織田信長は、戦国乱世・群雄割拠の時代に天下統一をめざしました。信長といえば、桶狭間の戦をはじめとする数々の合戦や、楽市楽座などの新たな政策を打ち出したことが注目されますが、本講座では信長と宗教、とりわけ仏教との関係に着目します。安土宗論・比叡山焼討・石山合戦など、信長は仏教と対立しました。果たして信長にとって仏教とは何だったのでしょうか。当時の史料をもとに、問うてみたいと思います。



第7回 10/17(土)

知られざる御朱印の世界

—江戸から令和、京都の御朱印を中心に—

村上 哲基 氏 (御朱印研究者)

十数年来の御朱印ブームにより御朱印拝受は手軽な趣味として定着し、一般にも広く認知されるようになりました。その一方で、御朱印とは何か、どのような歴史をたどり、変化してきたかについてはほとんど知られていません。おもに京都の寺社の御朱印を中心として、江戸時代から現代に至る御朱印の歴史と変遷をたどりつつ、この日本独自の宗教文化が持つ意義と可能性について考えます。



第10回 12/12(土)

「宗教都市」京都をアニメーションはどう描いたか  
—アニメにおける京都の「魅せ」方—

千葉 郁太郎 氏 (アニメ聖地巡礼・聖地移住研究者/  
京都文教大学 特任助教(2026年4月就任予定))

「アニメ聖地巡礼」といえばアニメの舞台となった土地を観光するものであることは、今や一般にも認知されるようになりました。特に京都は、多数のアニメ作品で登場しており、登場回数もファンにとっての人気度も全国トップクラスということいえるでしょう。アニメでは京都の情景のみならず、宗教行事も描かれてきました。ある時は地域の風物詩として忠実に、またある時は大胆に創作を加えて……多数の事例を交えて紹介します。



第2回 5/30(土)

京都の南蛮寺から見えること

井上 章一 氏 (国際日本文化研究センター 所長)

江戸時代のなかばすぎあたりからでしょう。お城の天守閣をめぐって、ある説が浮上します。あれはキリスト教、つまり天主教の館を手本にしている。信長侯の心得違いでできた建築だ、と……明治期までは、これが信じられていました。今は、否定されています。いわゆる南蛮時代のことです。京都の室町六角あたりに、キリスト教の教会がたちました。当時は、南蛮寺と言われていました。これが、天守閣とよく似た形になっていました。天守閣=天主教起源説にも、少しは可能性があるかもしれません。



第5回 7/25(土)

茶の湯と仏教

—茶の伝来と変遷—

筒井 紘一 氏 (一般社団法人文化継承機構 代表理事)

現在では日本を代表する伝統文化とされる茶道ですが、その始まりは平安期初頭に最澄・空海によってもたらされた茶種が原点とされています。その後、多くの変遷を経て、現在にみるような精神文化に発展したのは桃山時代の茶人千利休以降のことです。その間には、多くの宗教と関わってまいりました。本講義では、変遷の歴史をお話しさせていただきます。



第8回 11/7(土)

怪異の都・平安京の実像

—史料から読み解く京都の不思議—

久禮 旦雄 氏 (京都産業大学 法学部 教授  
一般財団法人京都宮廷文化研究所 代表理事)

今や妖怪や陰陽師は、舞妓さんや新撰組と同じくらい京都観光の目玉となり、京都について「魔界都市」「異界都市」といった言葉で表現する書籍も夏を中心に毎年のように刊行されています。しかし、京都のどこが「魔界」「異界」なのでしょう。この講義では、「平安京は怪異の都なのか」という問題をおもに桓武天皇の平安京遷都から陰陽師・安倍晴明の登場前後を中心に、史料に基づいて検討し、わかりやすく解説していきます。



第3回 6/6(土)

ミッションスクールの建築史

川島 智生 氏 (川島建築研究所 所長)

古都京都は仏教の本山が集まる宗教都市として知られ、近世には僧侶の教育機関としての学寮が設立されました。明治前期にキリスト教系学校が誕生し、その結果、仏教ならびにキリスト教が経営する宗教系学校、すなわちミッションスクールが数多く存在します。それら校舎の成立や特徴、設計した建築家について、建築史学の観点からみていきます。



第6回 10/3(土)

明治維新後の仏教と京都

—東本願寺を中心に—

谷川 穰 氏 (京都大学 大学院文学研究科 教授)

京都=「お寺のまち」というイメージは、国内外で共有されているように思います。京都の歴史も寺院や仏教を抜きにしては叙述できませんし、近現代のそれもまた同様ははずです。しかし、明治維新以降の仏教と政治・社会について見通すとすると、学術的成果もあまり知られていないかもしれません。本講義ではとくに19世紀末の東本願寺の再建を一つの軸に、政治家や地域社会との歴史的関わりについてふれてみたいと思っています。



第9回 11/21(土)午前 11/28(土)午後

同志社女子部とアメリカ・ハワイ

—キリスト教にもとづく人の交流—

飯田 耕二郎 氏 (元 大阪商業大学 教授/  
同志社女子中学・高等学校 学校史編集アドバイザー)

明治の初期に同志社女学校や京都看病婦学校が開かれ、アメリカからやって来たミス・デントンをはじめとする宣教師によってキリスト教教育が始められました。その教え子のなかからアメリカへ医学や看護学を学びに行く者がいました。また、同志社神学校を卒業してハワイに赴いた幾人かの牧師のうち、曾我部牧師が開設したホノム義塾から同志社女学校に留学する二世の子女もいました。そのような人物の交流や、彼女らのその後について明らかにしたいと思います。



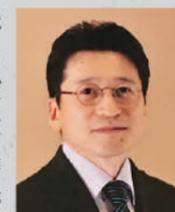
参加費必要 別途申込

実地講座 1 7/11(土) 定員 各20名  
午前コース/10:00~11:30 午後コース/13:00~14:30

世界遺産仁和寺の茶室を知る  
—尾形光琳の遠廓亭・光格天皇の飛瀟亭の空間を体感する—

飯島 照仁 氏 (井田林業数寄空間研究室 代表/茶の湯文化学会 副会長)

本講座では、重要文化財遠廓亭と重要文化財飛瀟亭の2カ所の茶室を現地で解説いたします。遠廓亭は、尾形光琳(1658-1716)が好んだ茶室で、琳派を発展させた光琳の特徴をその意匠から知ることができます。光琳の「ずれの美学」は一見の価値があります。また飛瀟亭は、光格天皇(1771-1840)の遺愛の席と知られています。寛政期頃、光格天皇の弟にあたる深仁法親王が当寺の門跡として座し、たびたび行幸されていました。立地を含めて楽しむ空間は、貴族的な発想が認められます。



実地講座 2 10/31(土) 定員 各15名  
午前コース/10:00~11:30 午後コース/13:00~14:30

京都のミッションスクールを訪ねて  
川島 智生 氏 (川島建築研究所 所長)

午前：平安女学院の校舎を訪ねます。明治期のハンセル設計の最初の校舎をはじめ、昭和初期のバーガミニ設計の講堂兼室内体操場を内包した本館、ヴォーリズと富家宏泰設計の戦後の校舎を見学します。煉瓦造・アールデコ・モダニズムと時代の変遷が4つの建物から一望できます。  
午後：同志社と同志社女子を訪ねます。同志社では明治期の5つの重要文化財となった煉瓦建築を、同志社女子では武田五一設計のジェームス館と栄光館を見学します。両校はわが国では歴史的洋風建築の学舎がもっとも数多く現存するキャンパスであり、うつくしい景観を醸し出しています。



※実地講座は別途参加申込が必要となります。(改めてご案内いたします)  
※申込多数の場合は抽選となります。